

ふさの会 秋の一泊旅行～九十九里へ

2017年9月23日より翌24日まで

感想文とのことですが、楽しかったの一言で終わってしまいそうなので、道中記の様な形にしたいと思います。

なにしろ南総里見八犬伝の里なので夜半からの雨は朝にはあがり皆様楽しみのふさの会旅行のはじまりです。

まずは、大型バスに乗りましょう。皆さんおそろいですか。

幹事の館野さんはいつもの様に朝からハイテンション、皆さんの紹介やら冗談やらで緊張をいっきに吹きとばします。

◆一路九十九里へ

最初の目的地は、菅原ガラス（クリニックにも展示されていますよね）ショールームには繊細なワイングラスやダイナミックな食器等が展示されています。どうやって作っているのかと誰もが疑問に思った頃、ガラスを操る職人さん達は、意外と若い人が多く、女性の方が多いくらいでした。

さて、楽しみな昼食は“やなぎや”さんへハマグリ・大きなエビ・ホタテ等々海の幸がいっぱいどれも笑顔になります。

◆食後近所にある窯元へ

月の庭窯は、昨今ガスや電気を使う窯が多い中、昔ながらの窯で松の薪を燃します。

作業場に入るとズラリと作品の並んだ棚、片隅に置かれたJBLのスピーカー、4弦のコントラバス、これはあるじの只なるぬジャズへの愛を思わせます。あるじの木暮隆之氏はジャズを聞きながら作陶にはげんでいらっしゃるかと思うとその作品からジャズの音色が聞こえてくる様な気がしました。

特に松灰の自然釉がかかった大きな壺はコントラバス。購入する人には館野さんが値引交渉…。おもしろおかしく値切るのはさすがです。木暮さんの奥様の点てて下さった抹茶のおいしかったこと。

つづいて地続きにある望月貞子美術館へ地元の画家故望月貞子さんの作品が数多く展示されており、くつろげる空間にもなっております。そして、いよいよ宿泊地であるサンライズ九十九里へ太平洋に向かって大きく湾曲した造りのサンライズ九十九里は全室その名の通り御来光を拝することが出来る様になっております。

◆ついとたんの卓球大会

理事長がこの日の為に用意したラケットが行方不明と大あわて普段の冷静さから思いもよらぬカワイイ一面も。

トーナメント方式で対戦見つかったマイ・ラケットで華麗（加齢ではない）にスマッシュをきめる。理事長 腰の方は大丈夫でしたか？



皆さん徐々にギアを上げて球は右に左に、はたまた上に、はじけ飛び会場は大興奮と笑いに包まれ、それはそれは楽しい思い出になりました。

続いては、この旅の一番の目的である勉強会。隊長の話では医療は日進月歩日々改善されているとの事。低血糖の事やふだん疑問に思っている事等に対する質疑応答があり有意義な時を過ごすことが出来ました。

夕食は、豪華で食べても食べても食べきれない食事をしながらの自己紹介は、それぞれの人生にふれる事が出来ました。“人に歴史あり”

その夜は、旅の疲れをいやそうとお風呂に入り浸る人、健康の為にマイクに向かい発声練習をする人などなど・・・かくして九十九里の夜は更ける。

2日目、九十九里浜を散策、天気晴朗なれど波高し、院長は貝殻を拾い、館野さんは、ヤドカリをつかまえ大はしゃぎ、ビュッフェで朝食、これまたけっこうでした。

その後、又バスに乗り青いポストのあるおみやげやさんへ、大きな水槽には沢山の真イワシが泳いでおり、地元の海の幸やら、新鮮な野菜・果物などが購入出来ました。

キナリのトマトを家に帰り食べましたが、それはもう甘くて美味。お昼はブルーベリーヒル勝浦のビュッフェへお城の様に豪華な部屋で芝生が美しい庭を眺めながらの食事です。

昔聞いたファツ・ドミノの唄ブルーベリーヒルが語源になっているのかしらんと思いつつ最右の食事なので思い残すことがない様にとお皿に山の様に盛り普段の節制も忘れ食べました。食後の腹ごなしは、芝生のお庭でのサッカーゲーム。館野さん手づくりのサンタのポールへ向けキック。これまた館野さん手づくりのサンタのトロフィーが商品。

みんな子供に帰って“シンケン”に勝負。ワイワイ・ガヤガヤと。いよいよ最後の人になりました。このたびバスの運転をして下さった渡辺さんです。練習ではポールにヒットその華麗なフォームから、だれしもが優勝はこの人に決まりだと思いました。

その時、悪魔か天使かのささやきが「優勝すると来年の仕事が・・・」でもスポーツマンの渡辺さんは決して忤度する様な人ではありません。思いっきりボールを蹴りました。帰路、バスの中ではビンゴゲームで大盛り上がり。2日間の夢を乗せバスは一路さいたまへ。

山崎 宏・ルミ子 記

